



## 株式会社 AFC-HD アムスライフサイエンス

2024 年 8 月期第 2 四半期決算説明会

2024 年 4 月 25 日

## イベント概要

---

[企業名]	株式会社 AFC-HD アムスライフサイエンス		
[企業 ID]	2927		
[イベント言語]	JPN		
[イベント種類]	決算説明会		
[イベント名]	2024 年 8 月期第 2 四半期決算説明会		
[決算期]	2024 年度 第 2 四半期		
[日程]	2024 年 4 月 25 日		
[ページ数]	28		
[時間]	15:30 – 16:21 (合計：51 分、登壇：37 分、質疑応答：14 分)		
[開催場所]	103-0026 東京都中央区日本橋兜町 3-3 兜町平和ビル 3 階 第 3 セミナールーム (日本証券アナリスト協会主催)		
[会場面積]	145 m <sup>2</sup>		
[出席人数]	23 名		
[登壇者]	4 名		
	代表取締役会長	浅山 雄彦	(以下、浅山)
	取締役会長室長	南方 茂穂	(以下、南方)

---

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



株式会社さいか屋 代表取締役社長  
株式会社さいか屋 常務取締役

山野井 輝夫（以下、山野井）  
中野 宏治（以下、中野）

---

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



## 登壇

---

**司会**：定刻となりましたので、ただ今から、株式会社 AFC-HD アムスライフサイエンス様の決算説明会を開催いたします。

まず最初に、会社からお迎えしております 4 名の方をご紹介します。代表取締役会長、浅山雄彦様です。

**浅山**：浅山でございます。よろしくお願いいたします。

**司会**：取締役会長室長、南方茂穂様です。

**南方**：南方です。よろしくお願いいたします。

**司会**：株式会社さいか屋、代表取締役社長、山野井輝夫様です。

**山野井**：山野井でございます。よろしくお願いいたします。

**司会**：株式会社さいか屋、常務取締役、中野宏治様です。

**中野**：中野でございます。よろしくお願いいたします。

**司会**：本日は、代表取締役会長の浅山様からご説明いただくことになっております。ご説明後、会場から質疑応答の時間といたします。

それでは、よろしくお願いいたします。

---

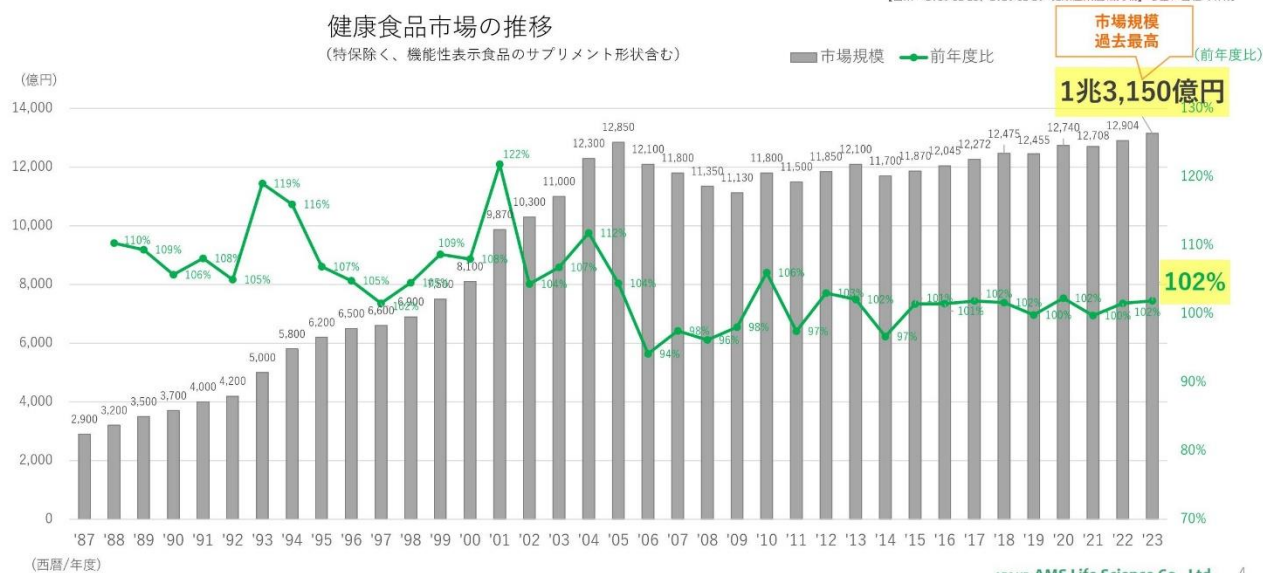
### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

## 【市場環境】健康食品市場の推移

単体

【出所：2018.12.21、2023.12.26 健康産業底層機軸】を基に当社で作成



浅山：それでは、当社 AFC-HD グループの第 2 四半期の決算のご説明に入らせていただきます。

冒頭、今ニュースで小林製薬様の問題等が当社にも影響のある業界にありますので、その辺も少し、私どもで分かる範囲でお話しさせていただきたいと思います。よろしくお願いたします。

まず、当社を取り巻く環境と申しますか、われわれが位置しております市場をご説明させていただきたいと思います。

まず、健康食品の市場です。

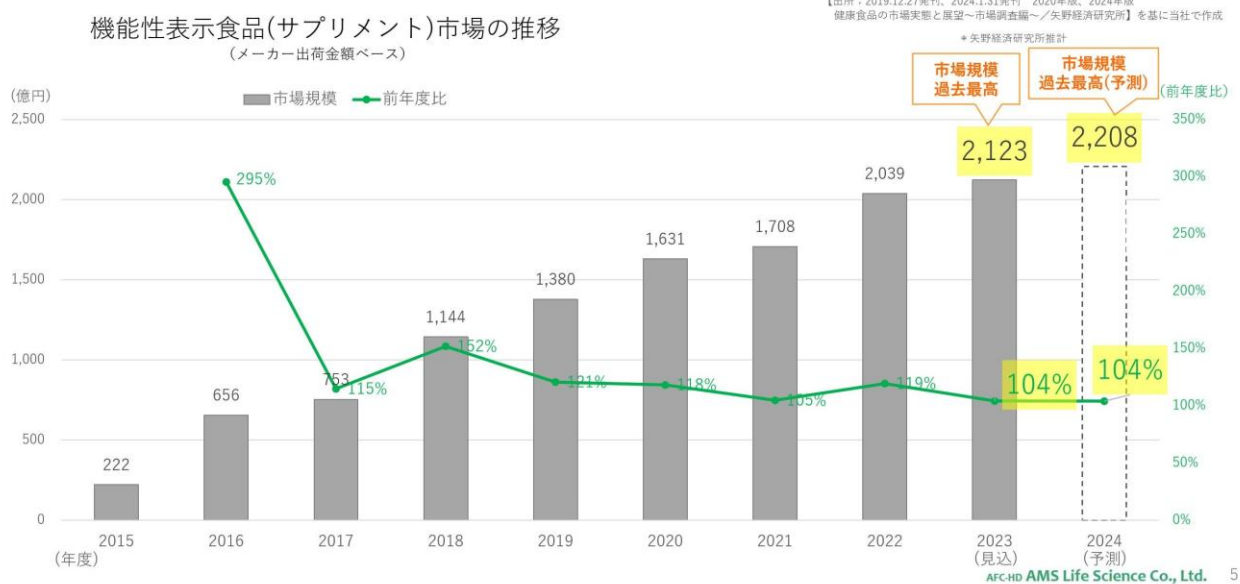
2005 年の 1 兆 2,850 億円、1 兆円強の市場がここ数年まではピークでございまして、そこから緩やかに下がったり、ちょっと盛り返したりしながら来たんですけども。特徴としては、ここ直近の 3 カ年、4 カ年ぐらいが大体少しずつ盛り返して、微増ではありますけれども、市場としては 1 兆 3,150 億円ぐらいの市場ということで、こちらは過去最高になっております。

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

## 【市場環境】健康食品：機能性表示食品(サプリメント)市場の推移

単体



次、お願いします。その中でも今話題になっています、紅麹もそうですけれども、機能性表示食品、一部効能効果が言える健康食品、サプリメントの市場が、その1兆3,000億円ぐらいの市場の中で、少し市場が大きくなっているような状況でございます。

例えば、一般食品のサプリメントとしてナットウキナーゼとか、そういった商品が市場の中で売上があったとして、それが機能性を言える食品に切り替わっているようなイメージです。それがプラスアルファ、市場に機能性表示が乗ったというよりは、もともとあった商品が機能性表示食品に切り替わっているようなイメージだと思っただけだと思います。

こちらも直近まで非常に売上がありまして、約2,200億円ぐらいの市場になっていたと。一番最初は2015年から始まっておりませんが、そのときから比べると約10倍の市場にこの10年でなっているというような市場でございます。

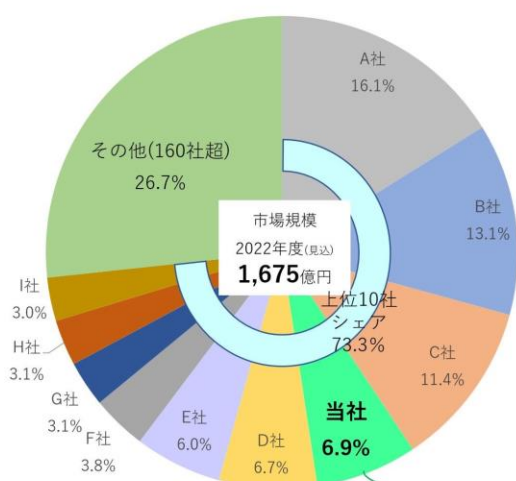
### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

## 【市場環境】健康食品：受託製造（OEM）市場規模とシェア

単体

【出所：2023.7.31発刊、2023年版 健康食品の受託製造（OEM）市場  
／矢野経済研究所】を基に当社で作成  
\*矢野経済研究所推計



AFC-HD AMS Life Science Co., Ltd. 6

その中で、当社で言いますとヘルスケア事業の主管でございます受託製造です。当社はいろんなお客様の健康食品、一部化粧品を代わりに製造させていただいている会社でございます、こちらの市場は、1位が岐阜のA社となっておりますけれども、アピさんです。小林製薬さんのときにお名前が出ていたかと思えますけれども、あの会社様が業界、OEMの事業の中では一番の会社でございます。

2位は東洋新薬という会社でございます。C、三生医薬さんと言いまして、同じ静岡の富士にある会社でございます、業界第4位が、業界の6.9%が当社AFC-HDグループのアムスライフサイエンスの売上というか、業界のシェアでございます。上位10社でこの業界で73%以上のシェアがありますので、ほとんどその10社で、このOEMの受託のお仕事はほぼ独占させていただいているというか、そんなような状況でございます。

その他で160社ぐらい全国に、規模がちょっと小さい会社様はあるかと思えますけれども、ほとんど売上シェアは10社の中で70%以上ということでございます。

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

## サマリ AFC-HDグループ【連結】

連結

- ・2024年度第2四半期(累計)実績は、前年比で売上高117%、営業利益151%となった。
- ・特に、コロナ収束に伴い、ヘルスケア事業における海外販売が伸長。飲食事業の回復等。

	2023 / 2Q累計		2024 / 2Q累計		増減額	前年比率	2024 / 2Q累計		2024 通期	
	実績	実績	実績	実績			当初業績予想 (2023/10/13公表)	達成率	業績予想 (2023/10/13公表)	進捗率
売上高	12,444	過去最高 14,542	+2,098	117%	13,764	106%	28,455	51%		
営業利益 A	678	過去最高 1,023	+345	151%	771	133%	1,801	57%		
(営業利益率)	(5%)	(7%)	(+2%)	-	(6%)	-	(6.3%)	-		
経常利益	708	過去最高 1,060	+352	150%	763	139%	1,788	59%		
(経常利益率)	(6%)	(7%)	(+2%)	-	(6%)	-	(6.3%)	-		
親会社株主に帰属する 四半期純利益	414	※過去2番目 641	+227	155%	471	136%	1,123	57%		
(親会社株主に帰属する 四半期純利益率)	(3%)	(4%)	(+1%)	-	(3%)	-	(3.9%)	-		
減価償却費 B	476	526	+50	111%						
EBITDA (A+B)	1,154	1,549	+395	134%						

※親会社株主に帰属する四半期純利益 過去最高 2021/2Q累計 734百万円

※2023.10.02にグループ化した浜松の企業（クレアライズ製薬及び同子会社1社、孫会社6社）を、2024.2QよりPLに加算（みなし取得日：2023年11月30日）

AFC-HD AMS Life Science Co., Ltd. 8

次、お願いします。サマリです。

グループ連結といたしまして、この中間決算におきまして、まず実績でございますが、145億4,200万円でございます。対前年比率としては117%、当初の期首の予算、予想といたしましては、137億6,400万円ございましたので、そちらも106%ということで、100%以上を達成することができております。ちなみに、売上は過去最高でございます。

営業利益は過去最高ではあったんですけれども、10億2,300万円、前期比率としては151%、予算に対しまして133%、7億7,100万円に対しまして10億2,300万円ございました。

経常利益は10億6,000万円、前年比率150%で予算に対しても139%でございます。

そして、EBITDAです。こちらが15億4,900万円134%でございます。

四半期の純利益ですけれども、6億4,100万円、ここだけ過去最高ではなくて、過去2番目だったんですけれども、これが2021年の第2クォーターのところ7億3,400万円であったという実績がありまして、それが過去最高になるんですけれども。このときには、主に海外向けの輸出がコロナ前に非常にあったということがありまして、それが過去最高だったんですけれども、今期、過去2番目の純利益で今、中間まで来ております。

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



## 事業別売上高【連結】

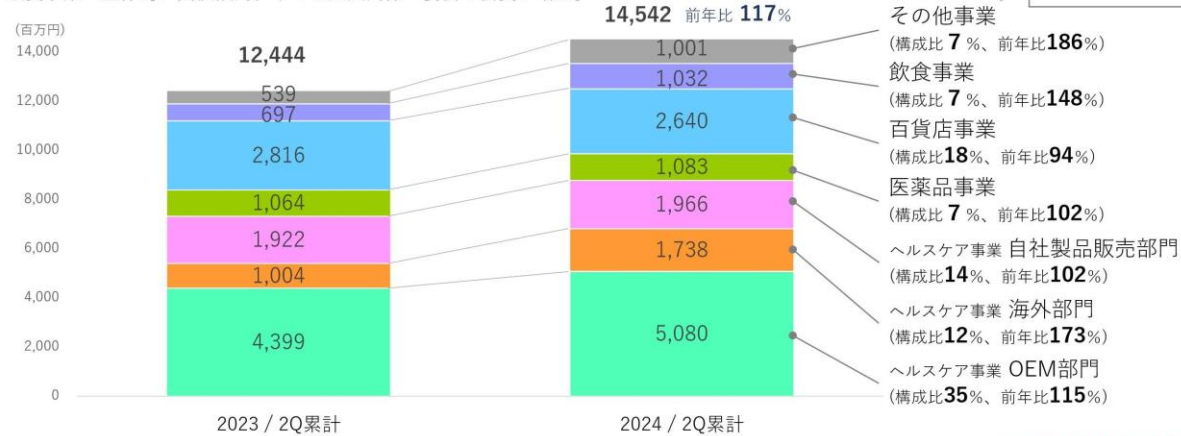
連結

ヘルスケア事業：主軸OEM部門が堅調。海外部門はコロナ収束に伴い、既存顧客における美容商材が回復。

医薬品事業：ジェネリック医薬品と漢方薬OEM受注が好調。

百貨店事業：昨年6月のヤマダデンキ開店以降、入店客数の増加等に加え、賃料収入が拡大。  
昨年9月～今年3月迄ヨークフーズ出店のため、横須賀店地下1階を改装工事。

飲食事業：全体的に回復傾向、中でも法人関係の宴会や会食が増加。



※2023.10.02にグループ化した浜松の企業（クレアライズ㈱及び同社子会社1社、孫会社6社）を、2024.2QよりPLに加算（みなし取得日：2023年11月30日）

AFC-HD AMS Life Science Co., Ltd. 9

次、お願いします。ここから、事業別の売上高についてご報告させていただきます。

当社はヘルスケア事業の中に部門が三つありまして、先ほどご紹介いたしました OEM の事業、あと海外部門の主に輸出を手がけている部門、あとは自社のブランドを持っていて、AFC というブランドを持っていて、そちらの主に通販、百貨店の小売です。あとはインターネットを最近ではやっておりまして、それら三つがヘルスケア事業ということです。

プラス、本草製薬という会社の医薬品事業。百貨店事業というのが、きょう来ています、さいか屋の事業です。あとは飲食店事業、この6事業を主としておりまして、プラスアルファ、その他の新しい事業にチャレンジしているような状況でございます。前期比 117%、145 億 4,200 万円で、こちらが非常に好調でございました。

主にヘルスケア事業の OEM の部分が堅調でございまして、海外部門がコロナ終息に伴いまして、既存のお客様の、特に美容商材が回復してきているということと。ジェネリック医薬品、医薬品事業の医薬品と漢方薬の OEM、こちらが非常に好調でございました。

百貨店事業ですけれども、こちらが昨年の6月に藤沢店にヤマダデンキさんがニトリさんの代わりに入っていただきまして、それに伴って入店客数が非常に増えまして、売上が賃料も含めて増えたということでございます。

しかし、昨年の9月から横須賀店の地下食品フロアがあったんですけれども、こちらがイトーヨーカ堂グループ様のヨークフーズ様に出店していただけるということで、地下を改装工事で半年ぐら

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



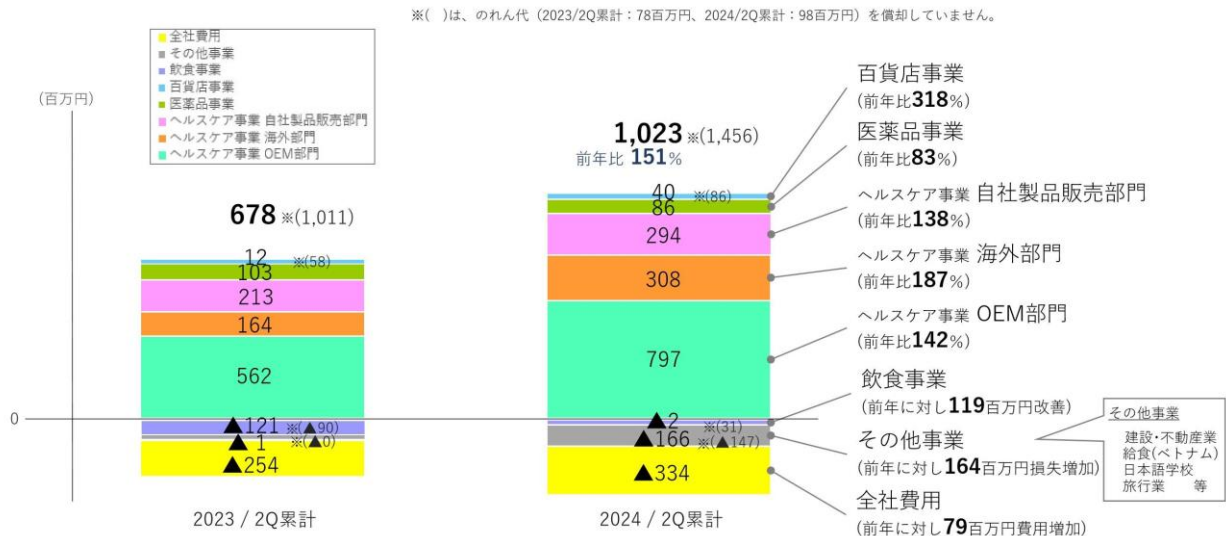
いかかりまして。そのときの売上がなかったものですから、今期、当初の予算に対して少しずれが出てるのは一つそういう理由でございます。

飲食店事業も回復傾向でございまして、中でも法人関係の宴会とか会食が非常に増えてきているということで、全体を通してほぼ前期を上回る成績で終わっております。

2024年8月期 第2四半期決算報告

## 事業別営業利益【連結】

連結



※2023.10.02にグループ化した浜松の企業(クレアライズ㈱及び同社子会社1社、孫会社6社)を、2024.2QよりPLに加算(みなし取得日:2023年11月30日)

AFC-HD AMS Life Science Co., Ltd. 10

利益です。

前年比 151%、10 億 2,300 万円でございますけれども、主力の OEM 部門が引っ張ってございまして、海外も好調でございます。また、自社製品販売部門も非常に好調でございます。この三本柱、ヘルスケアがグループの利益を引っ張っていっているというような状況でございます。

その他事業にもチャレンジしてございまして、そちらの影響が少し出ております。通期でも今、その辺の数字を、取りまとめているような状況でございます。

こちらの全社費用の増加につきましては、前年 7,900 万円分。これはほとんど、ストックオプションを昨年度やらせていただきまして、そちらの費用でございます。

### サポート

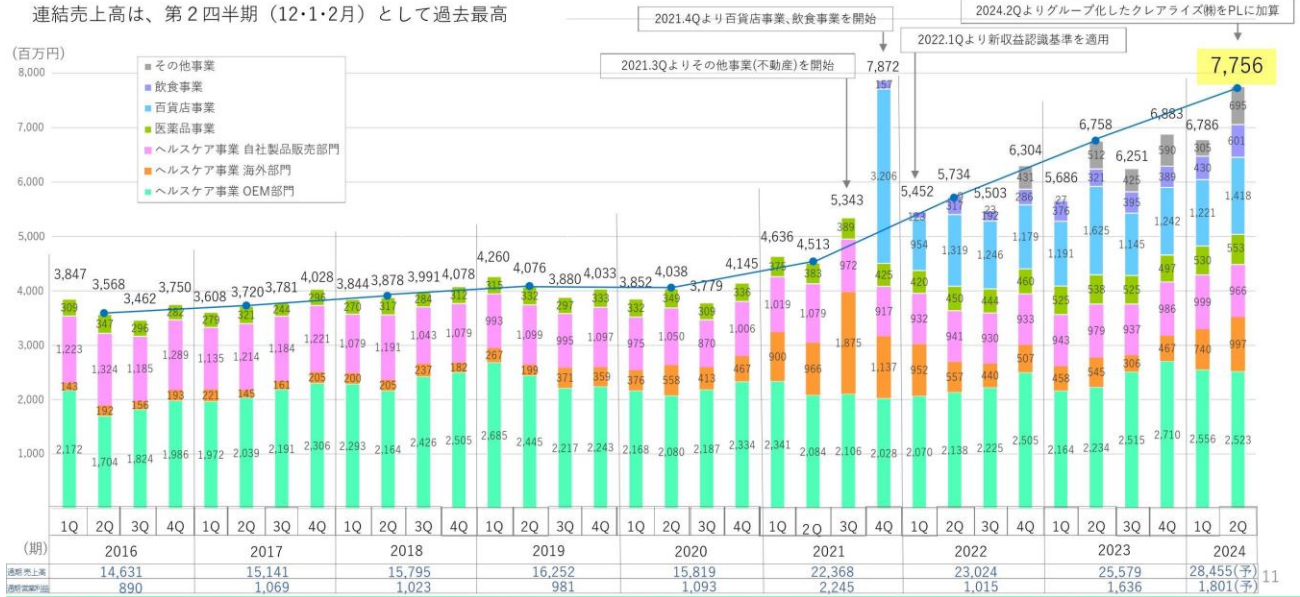
日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



# 部門別の四半期ごとの売上高推移【連結】 (1/2)

連結

連結売上高は、第2四半期(12・1・2月)として過去最高



次、お願いします。こちらはちょっと見にくいかと思いますが、お手元の資料でご確認いただければと思うんですけれども。これは年度を四半期、3カ月ごとの数字を追った売上の推移でございます。この青い線は、同じ第2四半期をうまくマーキングしてもらって、数字を並べさせていただいているんですけれども。

大体トレンドとしては、右肩上がりに来ているということでございます。前年も第2四半期と第4四半期に売上が少し重なる状況がここは続いているんですけれども。これは百貨店事業、さいか屋様の中元とかお歳暮に係るものと、当社が決算が8月でございますので、その都度、2月と8月にキャンペーンをやるものですから、それに伴って、大体最近第2クォーターと第4クォーターのところで売上が少し伸びてくるというようなことが言えます。

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



## 連結BS概要【連結】

連結

2023年10月2日にグループ化したクレアライズ㈱及び同社の子会社1社、孫会社6社が加わったことにより、資産、負債が増加

(百万円)

	2023 / 4Q末	2024 / 2Q末	増減額	前年比率
流動資産	19,875	20,698	+ 823	104%
固定資産	21,196	23,612	+ 2,415	111%
資産合計	41,071	44,311	+ 3,239	108%
流動負債	14,854	16,303	+ 1,448	110%
固定負債	13,059	14,376	+ 1,316	110%
株主資本	13,006	13,525	+ 518	104%
その他純資産	150	106	△44	71%
負債純資産合計	41,071	44,311	+ 3,239	108%
現預金 A	11,182	10,304	△877	92%
有利子負債 B	19,577	21,774	+ 2,197	111%
Net Debt (B-A)	8,395	11,470	+ 3,074	137%

※2023.10.02にグループ化した浜松の企業（クレアライズ㈱及び同社子会社1社、孫会社6社）を、2024.1QよりBSに加算（みなし取得日：2023年11月30日）

AFC-HD AMS Life Science Co., Ltd. 12

次、お願いします。連結のBSの概要でございます。

まず、流動資産でございますが206億9,800万円、固定資産236億1,200万円、資産の合計として443億1,100万円。流動負債といたしまして163億300万円、固定負債143億7,600万円、株主資本として135億2,500万円、その他純資産が1億600万円、負債と純資産の合計が443億1,100万円。現預金が103億400万円、有利子負債が217億7,400万円ございました。

特に昨年の11月30日に、静岡の浜松で不動産事業をやっていましたクレアライズという会社をM&Aいたしまして。そちらが総資産20億円の会社で、のれんも6億5,000万円ぐらいある会社ですけれども、そちらを1円で当社にグループ入りしたということで、そちらが非常に、資産とか負債に影響しているかと思えます。

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com





- 広告表現に対する規制が強まる中で、機能を表示できる機能性表示食品全般の受注が堅調。
- コロナ収束に伴い、来客数の増加やインバウンド消費の回復等により、ドラッグストア等の店舗販売業の顧客における受注が増加。

## ◇ 「紅麹」問題について

2024年3月22日(金) 小林製薬(株)が「紅麹関連製品の使用中止と自主回収」を公表



## ■ 当社の状況について

- ・ 自社国内AFCブランド商品には、紅麹を使用した製品はありません。
- ・ 原料商社のエステック(株)から仕入れ、他社ブランドの製品 (OEM) を、国内11社・国外2社へ製造販売。年間売上高は約7,000万円。
- ・ 該当ロット (小林製薬の「意図しない又は想定していない成分」が含まれている可能性がある原料) は、使用しておりません。

## ヘルスケア事業 OEM部門

2024年8月期 通期予想 売上高 9,660百万円 (前期比 100%)  
営業利益 1,380百万円 (前期比 100%)

AFC-HD AMS Life Science Co., Ltd. 14

次、お願いします。ここからは、各主要事業の状況についてご説明させていただきたいと思えます。

まず、ヘルスケア事業の OEM 部門です。

こちらが冒頭で触れさせていただきました、紅麹に関する問題です。実際、当社は小林製薬様から直接原料を仕入れておりません。エステックという商社様から原料を仕入れて、それを加工させていただいて、お客様に販売させていただいているというような状況がございました。

そのうち、問題になっています原料でございます。これはホームページを見ていただくと分かるんですけども、3P-D20 という小林製薬様から発表されている、最終的にはプベルル酸というものが含まれていたという原料につきましては、2023 年度から当社は 1 キロしか購入した実績がなく。たまたまですけども、その 1 キロを製品化する前にこの問題が起きたものですから、今、特に問題になっている原料につきましては、当社の中では使用実績がなかったということでございます。

そして 1P-DK という原料、よく色付けに使われていて、食品の会社様で回収の話が出ておりますけれども、色付けに主に使われている原料です。これを 125 キロ購入しております、国内 11 社、海外 2 社に販売しておりました。こちらは昨年実績で、全体で当社で売上としては 7,000 万円ぐらいの売上があったものですから、今年これが全部飛んだとして 7,000 万円ぐらいのマイナスが

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

予想されるということと、利益も大体 10% ぐらいですかね、700 万円とか 1,000 万円ぐらいの影響があるんじゃないかと予想を立てております。

そのあと、小林製薬様からの情報が出てこないものですから、現状は当社から販売させていただいた商品の回収を 1P-DK の 125 キロに関しましてお願いしているというような状況でございます。

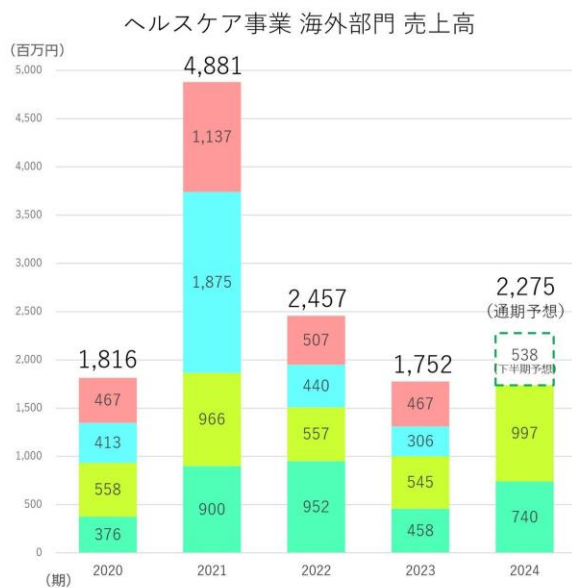
その影響は今後どのような影響になっていくかというのが分からないのが現状でございます。今、ニュースで非常に健康食品もそうですけど、機能性表示食品がニュースになって、買い控えとか、そういうようなニュースも出ておりますが、これが下期にどのような影響を与えるかというのは今、社内でも聞き取り、検討、またいろんな情報を集めているような状況でございます。

6 月までは受注がもう見込めているものですから、だから最後の 7 月、8 月ぐらいのところに、今、原料を購入させていただいて、大体 3 カ月ぐらい納期があるものですから、それが少し影響が出ているような情報を得ておりますけれども。基本的には、OEM に関しましては通期予想を変えずに、年間 96 億 6,000 万円という予算、これは変えずに今期は最後まで頑張っていきたいと思っております。

各施策の進捗

## ヘルスケア事業 海外部門

連結



- ・コロナ収束に伴い、既存顧客における美容商材 (NMN等) の受注が回復基調で推移  
\* NMN…アンチエイジング商材

- ・育成中の外国人営業スタッフによる母国等での新規顧客獲得により受注が伸び始めている



- ・工場の生産効率が上がり、収益性が上がる
- ・海外販売は国内販売に比べ売上総利益率が高い

ヘルスケア事業 海外部門  
2024年8月期 通期予想 売上高 2,275百万円 (前期比 128%)  
営業利益 380百万円 (前期比 140%)

AFC-HD AMS Life Science Co., Ltd. 15

続きまして、ヘルスケアの海外部門です。

こちらが、先ほど純利益最高の年が 2021 年ということでしたけれども、特に現状、当社グループの売上、利益を牽引し始めているのが、海外への輸出、ヘルスケア事業のサプリメントを当社がつくらせていただいて、輸出をさせていただいている事業です。

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



こちらは、過去最高が年間 48 億 8,100 万円という具合に突出して出ている。これがコロナの前に、特に東南アジア向けの製品がヒットしまして、こちらの影響を受けていると。それがその次の年からコロナで販売が滞ったということで数字を落としたんですけれども。大体、海外のコロナの影響はもうなくなってきているものですから、どこかで回復するのではないかというお話も以前させていただいていたんですけれども、今期、少しずつ回復しております、既に前期の通期に近い数字がやれておると。

本当はここをもう少し、行くんじゃないのというようなお話もあるんですけれども、確におっしゃるとおりだったんですけれども、この辺は保守的に見させていただいております。

各施策の進捗

## 医薬品事業 本草製薬(株)

本草製薬

連結

### ■ジェネリック医薬品の好調

販売を強化してきた利益率の高いジェネリック医薬品の売上比率が高くなり、粗利益率が改善。

### ■漢方薬のOEM受注が好調

- ・投資した医薬品の生産設備を活用
- ・稼働率が上がったことにより、粗利率が向上
- ・新規設備により、西洋薬への進出

安定的に黒字が出せる体制になった

### ■薬価

医療用漢方製剤の薬価が、2024年4月1日から1.5倍に上がった。これにより、月2,500万円の売上、利益が上がる。

### 医薬品事業

2024年8月期 通期予想 売上高 2,200百万円 (前期比 105%)  
営業利益 211百万円 (前期比 104%)



### 漢方薬のOEM



AFC-HD AMS Life Science Co., Ltd. 16

次、お願いします。医薬品事業の本草製薬です。

こちら名古屋に本社、製造工場も名古屋にありますけれども、こちらで漢方薬と一部ジェネリック医薬品を製造販売させていただいております。

自社でジェネリック等医薬品をつくることによって、以前に比べて粗利益が非常に改善してきているということでございます。漢方薬の処方当社は四十数処方持っております、こちらを販売会社様に OEM という形で提供することをここ数年手がけておまして、こちらの売上が非常に好調でございます。結果的に安定的に黒字が出せる会社になってきたということでございます。

これは非常にわれわれは喜んでおりますけれども、薬価がもう 10 年以上厚労省等にご相談にあがったんですけれども、2024 年、今年 4 月 1 日から 1.5 倍に最低薬価を上げていただけるとい

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



うことになりまして。これによって、月 2,500 万円ぐらいの売上が上がってくるというようなことがありまして、非常に経営も楽になって、今後の新しい設備投資に非常につながっていくのではないかと考えております。

こちらは売上高 22 億円、前期比 105%、営業利益 2 億 1,100 万円、こちらも一応据え置きにさせていただきます。

続きまして、百貨店事業のさいか屋でございます。こちらはきょう、社長の山野井がまいっておりますので、いったん代わらせていただいて、ご説明させていただきます。

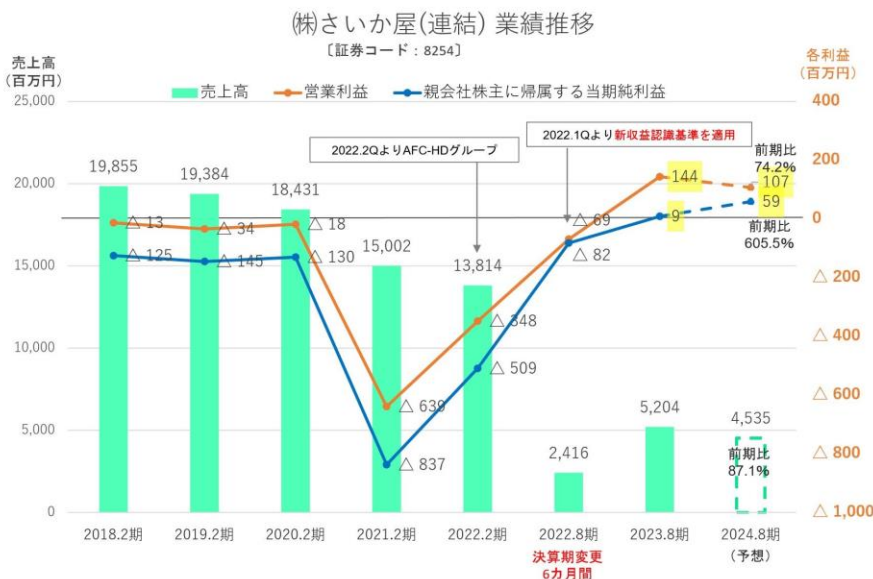
**山野井：**さいか屋の山野井でございます。よろしくお願いいたします。

各施策の進捗

## 百貨店事業 (株)さいか屋

さいか屋

連結



横須賀店 本館		藤沢店	
6F	改装準備中	屋上	テニススクール
5F	改装準備中	8F	レストラン <b>2023年6月 OPEN</b>
4F	紳士服等	7F	YAMADA
3F	婦人服等	6F	YAMADA
2F	婦人服、うなぎの徳川等	5F	YAMADA
1F	AFCショップ、買取物、菓子、ファッション雑貨等	4F	YAMADA
B1F	YORK FOODS	3F	婦人服等
B2F	駐車場 <b>2024年3月 OPEN</b>	2F	婦人服、紳士服等
B3F	駐車場	1F	AFCショップ、買取物、菓子、ファッション雑貨等
		B1F	<b>改装工事中</b>
		B2F	駐車場

2024年秋 OPEN **ライフ**

AFC-HD AMS Life Science Co., Ltd. 17

まず、さいか屋という百貨店のご紹介をさせていただきます。さいか屋は、今年の10月20日で152年の歴史を持っている、神奈川県藤沢、横須賀、川崎はサテライトですが、3店舗を旗艦店として、今、神奈川県の百貨店事業、電鉄系は京急さんとかもあるんですが、百貨店としてはさいか屋が一番古く、店舗数も歴史もあるという状況でございます。

今こちらにも書いてあるように、2022年第2クォーターより、AFC-HDグループの連結の子会社として今に至っております。これをご覧になっていただくと分かりますように、ここで2024年第2クォーターの、要するに3月から今、AFCグループの中で、私もそのときからさいか屋のほうに行っております。

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com





そういった中、大体見ていただくと分かるように、22年の2月期の決算を22年の8月に変更していますから、こちらは半年は、それまでは2月決算ということですからずっとやってきているんですけども。営業損失が3億円、それから経常損失が5億円と、その前の21年度2月期に関しては、営業損失6億3,500万円、経常では8億3,000万円で、非常に厳しい状況でAFCグループに入る前は赤字を9年間続けて、ずっと赤字という中で、グループに入りました。

当然、単純に簡単に上がったのではなく、AFC-HD アムスライフサイエンスグループの応援をいただきながら、借入の金利の借り換えとか、いろんなことをやっていただきながら一気に。この前も、うちの中野がフジテレビのめざましTVという、朝7時からやっている番組に出させていただいて、V字回復ということでフジテレビで流していただいたんですけども。

やはり百貨店としての数字的には厳しいですが、グループの応援をいただきながら、シナジー効果の中でご覧になっていただけると、ここが半年になっていきますけれども。前期、営業利益で1億4,400万円、純利益で900万円という形で、ずっと9年間続いていた赤字が黒字という形で前期を終えました。

それに関しては、今お話ししたように、親会社の全面的な応援をいただきながら、プラス、当然構造改革ということで、先ほどお話があったように、ヤマダデンキさんに入店をいただいたときから、今年の3月20日にオープンした横須賀店のヨークマートということで、ここに入らせていただいて。

ここも半期の決算発表をしたときにご報告したんですけども、藤沢店の食品も4月の1日から閉めておまして、今年の秋、食品スーパーでは最大手のライフさんに出店をいただくことが決まっております。これが秋、10月後半を予定しています。ここで、ライフさんというスーパーが地下1階に出店をしていただきます。

2025年度の期に、全て今お話ししている、ここである改装中の横須賀店、それから藤沢店の地下1階のライフさん、この辺が出店をしてまいります。

再来期からはしっかりと、さいか屋としては全面的に改装を終了し、当然店舗のリニューアルをし、構造改革をしながら。今、高島屋さんとかいろんなところがOKストアさんとかいろんなことを入れながら、従来の百貨店の業態を変更してきている中で、地方百貨店であるさいか屋が率先してスーパーを入れたりとか、定借、これは東急百貨店さんも今、東急のれん街を百貨店でやってたものを電鉄直結にしながら定借でやっているような形を、さいか屋とグループの応援をいただきながら、改善をしながら。

---

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



2025年、再来年の期には、きちっと従来の黒字がしっかり出せる構造改革を終了して、グループに貢献していけるようにということで、もう1年半ぐらい業務改善をしながら実施していくという状況でございます。

一番、今後、さいか屋としてグループシナジーも含めた形で、やはり今までの旧態依然とした百貨店のようにテナントに入っただいて、売上に対して家賃をもらうということではなく、やはり百貨店の業態を変えていくということで、定借を含めた部分と。それから、AFCグループの中で今回の横須賀店に、あさやまという天ぷら屋さん、これは、なすびというグループ会社に出店していただきました。

それでは、同じようにクレアライズという、今、浅山会長のお話があった浜松の会社のうなぎ屋さん、これをさいか屋自主運営で横須賀店にオープンをいたしました。

今後も藤沢店を含めて、何しろ定借を中心にしながらも、グループとして、自分たちで店舗を自主運営して収益を上げていくという自主運営というものを一つの課題にしながら、今期、来期は黒字化を図り、目指して、しっかりやっていきたいと思っております。

それで先週ご報告したように、半期の決算、6カ月の決算を発表させていただいて、売上に関しては26億4,000万円、営業利益に関しては6,600万円、経常利益に関しては5,800万円、四半期純利益4,800万円という形で報告をさせていただいています。

通期に関しては、年間で45億8,000万円、営業利益が1億700万円、経常利益が8,900万円、当期純利益5,900万円という形で期末を迎えたいと思っております。

これからも、グループとのシナジー効果を含めて、一丸となってさいか屋運営をしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。以上でございます。

**浅山：**社長の山野井からお話があったとおり、さいか屋も歴史は150年以上あるんですけども、ここ数年大手百貨店に右にならえではないですけども、テナント様ありきの業態にずっとなっていたと。それが時代によって少しシュリンクしてきた中で、非常に屋台骨が崩れまして苦労してきたというところにわれわれが入ったと。

地域の百貨店でございますので、大手の百貨店様とはちょっと違った営業をしていかなければいけないということで。われわれは微力ですけども、少しずつわれわれのやれることをさいか屋にも注入させていただいて、9年間赤字の会社が昨年度やっと黒字になったということで、これにあぐらをかくことなく、次々と今までやれなかった施策を今後も打っていくということでございます。よろしくお願いいたします。

---

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



- 各店舗において、全体的に回復傾向。  
中でも法人関係の宴会や会食需要の回復が売上増に大きく寄与した。
- 2023年9月、日本テレビ系列の番組“ヒューマングルメンタリー オモウマイ店”にて、「なすび総本店」のジャンボ海老フライが紹介され、好評を得ている。



2023年12月8日OPEN  
天ぷらと手延べそうめん「あさやま」  
さいか屋 横須賀店 南館3階



2024年1月19日OPEN  
和食と寿司「一ふじ二たか」  
JR静岡駅南口近く 1F和食、2F寿司



▼なすび総本店（静岡市清水区）



### 飲食事業

2024年8月期 通期予想 売上高 2,764百万円（前期比 186.5%）  
営業利益 33百万円（前年に比べ 85百万円改善）

AFC-HD AMS Life Science Co., Ltd. 18

続きまして、飲食店事業です。

これも M&A をいたしまして、静岡の飲食店グループだったんですけれども、17 店舗持っていた会社で、なすびというグループを 3 年前に買収いたしました。

やはり、コロナの影響、地方ではございますけれども、やはりもろに受けまして、非常に厳しい状況ではあったんですけれども。コロナが 5 類になっていくという中で、売上もそれと同じに回復してきております。

今、非常に人気のある日本テレビ系列の、ヒューマングルメンタリー オモウマイ店という番組があるんですけれども、こちらにもタルタル兄弟なんていって、社長、専務が取り上げられておまして、エビフライを番組で紹介していただきまして、非常に認知度も上がってきました。新しい店舗も、先ほど山野井が言っていました、あさやま、天ぷらとそうめんのお店でございます。これは横須賀店に新規 2023 年 12 月にオープンさせていただきました。

地元静岡にも少し高級な、付加価値の高いお料理を提供させていただくお店を、1 月、今年になって新しくオープンしておまして、非常に足元も好調だということでございまして。売上年間 27 億 6,400 万円、営業利益 3,300 万円という目標に向かって、今、下期に向かって、なすび、飲食店事業も頑張っておる次第でございます。

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

先ほど、10 ページの部門別のところをもう 1 回出せますか。利益のところです。飲食店事業がマイナス 200 万円、中間でマイナスになっているということでございますが、これは数字の捉え方の違いで、実際、なすびだけでしたら黒字になっているんですけども。

先ほどご紹介しました、クリアライズグループ、浜松の会社の中に飲食店事業 FSC という事業部がありまして、そちらがまだ赤字を出しているということで、今まではなすびだけだったんですが、こちらの赤字をこのなすびのほうの飲食店に加えてしまったものですから、少しマイナスになっているということでございます。それでも何とかそれを抱えながらも、年間の利益は黒字必達でやろうということで、今、営業をさせていただいております。

各施策の進捗

## その他事業 (株)E-エフシー不動産ならびにクリアライズ(株)とそのグループ会社

連結

### ■子会社同士の合併および子会社の増資

グループ経営の効率化による収益性の向上と、機動的な組織体制を構築し改善を図る。



### その他事業

建設・不動産業  
給食(ベトナム)  
日本語学校  
旅行業 等

### その他事業

2024年8月期 通期予想 売上高 3,060百万円 (前期比 196.7%)  
営業利益 6百万円 (前年に比べ 25百万円改善)

AFC-HD AMS Life Science Co., Ltd. 19

次、お願いします。その他事業、ここが先ほどクリアライズという会社を昨年 11 月に当社は迎え入れたわけですが、今、再編をやっておりまして。当社はもともと、不動産事業と建設事業をやり始めたばかりだったんですけども、こちらを、当社よりも実績等のある会社だったので、こちらに融合させたりしようとしております。

もともと当社でやっておりました AFC 不動産をクリアライズのグループ 2 社と一緒にさせまして、AFC スマイル不動産として、FSC、これが先ほど申しました飲食店事業だったんですけども。こちらはそのまま据え置きで FSC という会社を残して、主にこのスマイルホーム、リフォームの会社だった伸栄建装、スマイルライフパートナーズという不動産の会社と一緒にして、当社の

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

**SCRIPTS**  
Asia's Meetings, Globally



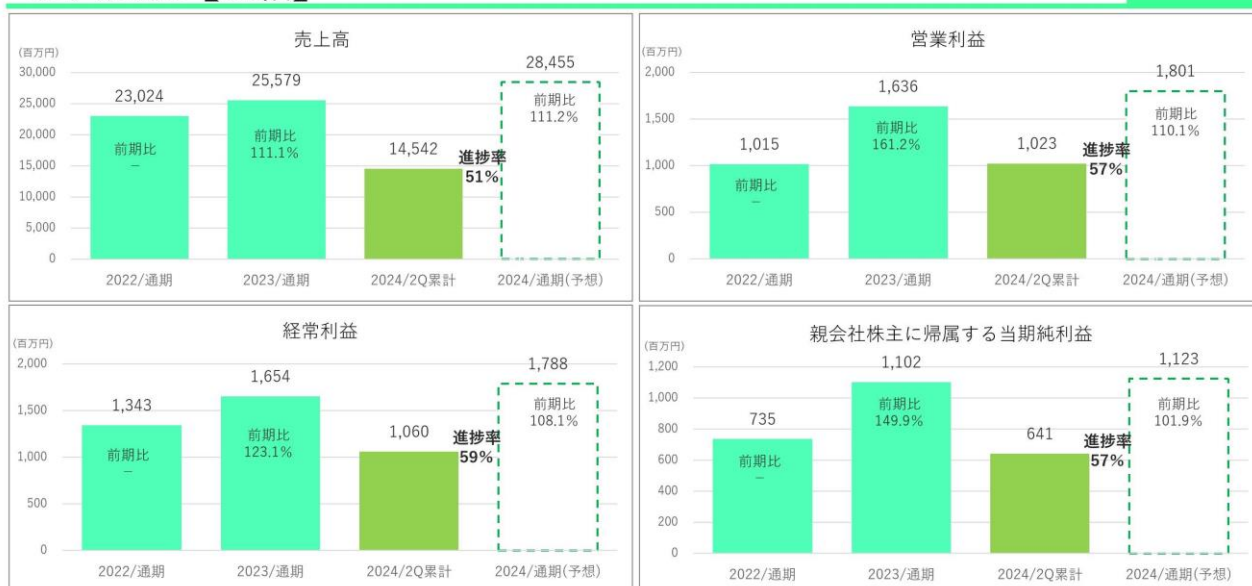
AFC スマイル建設という名前に変更させていただいております。9社あったところをグループ化することによって四つにまとめまして、目下、整備しているところでございます。

その他事業には、先ほどご紹介しました建設、不動産以外にも、ベトナムの給食事業、あと日本語学校、旅行業も始めております。まだ日が浅いものですから、まだグループに利益という形で貢献できておりませんが、将来を見据えて、こういう事業も新たに始めさせていただいております。

2024年8月期 通期見直し

## 経営成績【連結】

連結



\* 2022.8期より新収益認識基準を適用しており、売上高及び利益面において影響が生じるため、前期比は記載しておりません。

AFC-HD AMS Life Science Co., Ltd. 21

次、お願いします。見直しです。

売上が284億5,500万円、前期比として111.2%、営業利益が18億100万円、前期比で110.1%、経常利益17億8,800万円、前期比として108.1%、親会社株主に帰属する当期純利益としては11億2,300万円で、これを全部達成できれば多分過去最高ぐらいになるかと思います。

非常に保守的な部分もあるんですけども、先ほど申しました、例えば小林製薬に端を発しました紅麹の問題とか、そういうもの、あとはさいか屋が今、藤沢店の売上の約40%ぐらいあった地下の食品フロアを閉めておりますので、そちらの数字が見えないこと。あと、先ほどクエアライズ、不動産事業が赤字で当社に来ておりますので、そちらの数字が少し読めないこともありまして、私としては保守的に、通期の売上、利益の目標を据え置きにさせていただいております。

また、数字等が確実に became 際には、途中で皆様に即時開示させていただいて、ご報告させていただきたいと思っております。

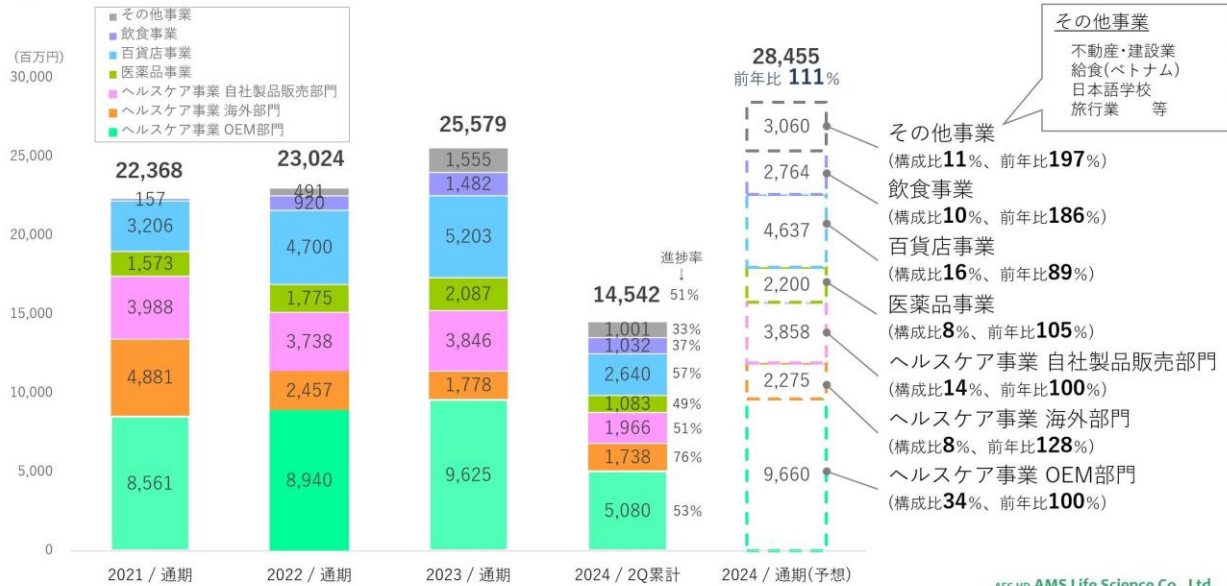
### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



## 事業別売上高【連結】

連結

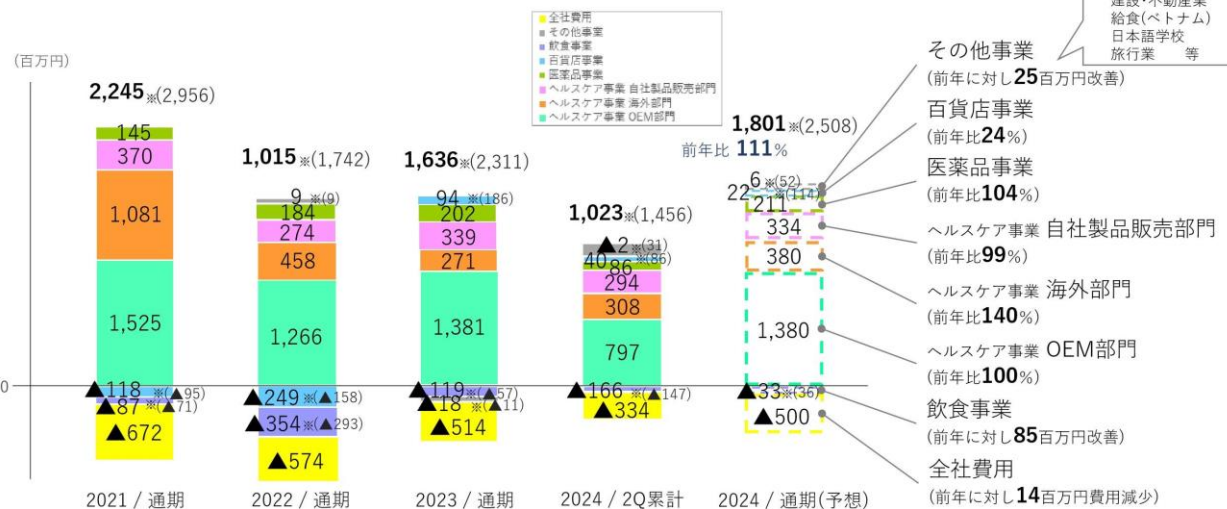


売上の内容です。ご参考にしていただければと思います。

## 事業別営業利益【連結】

連結

※( )は、のれん代(2021/通期: 38百万円、2022/通期: 152百万円、2023/通期: 160百万円、2024/2Q累計: 98百万円、2024/通期: 206百万円)を償却していません。



※2023.10.02にグループ化した浜松の企業(クレアライズ㈱及び同社子会社1社、孫会社6社)を、2024.2QよりPLに加算(みなし取得日: 2023年11月30日)

次は、利益です。

以上となります。どうもご清聴ありがとうございました。

司会: ご説明ありがとうございました。

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



## 質疑応答

---

**司会 [M]**：それでは、ご案内のとおり質疑応答に入りたいと思います。

なお、この IR ミーティングですけれども、質疑応答部分も含めまして全文を書き起こして公開する予定です。従いまして、匿名を希望される場合は、質問する際に氏名を名乗らないようにしていただければと思います。

それでは、ご質問はいかがでしょうか。お願いいたします。ありがとうございます。

**質問者 [Q]**：いつもご丁寧なご説明ありがとうございます。何点かお伺いしたいんですけれども。

まず、さいか屋の再建に関して、まだ慎重なコメントをなさっていらっしゃるかなと聞こえたんですが。黒字転換させて、ある程度めどを立てたという点では、もっと評価されていいのかなという印象を持つんですけれども。

今後のさいか屋自身のさらなる強化というところとともに、地方百貨店の立て直しというのに対して、今回の経験を活かして、別のところもというような展開は視野に入っているのか、いないのか。地方百貨店の再建のノウハウの部分になるでしょうから、あまり詳しくおっしゃれないかもしれませんが、ここが肝だみたいなものがあれば教えていただいた上で、御社が得たノウハウみたいなところで、今後どういう展開があり得るのか。

本当に安く買える地方百貨店はたくさんあるのではないかなとお見受けしますので。御社ならではのノウハウがあるんだったら、逆にすごくポテンシャルがあるのではないかなとも見えなくもないんですけれども、どういうお考えなのかというのを、まず質問の1個目とさせていただければと思います。

**浅山 [A]**：どうもありがとうございます。さいか屋につきましては、非常に持ち上げていただいておりますけれども。われわれも、もともとはさいか屋さんにテナントとして、AFC のショップとして出店させていただいたところからのご縁でございます。われわれもテナントは運営の実績があるんですけれども、百貨店全体を運営するなんてことは、正直言います、もともと想定していなかったわけなんですけれども。流れで、ご縁があって当社の名誉会長が主導してやったということでございます。

特に難しいことをやったというよりも、当社のグループの経営方針ですが、とにかく赤字は絶対駄目だと。何が何でも黒字にしないと、その先の展開も得られないということで、例えば金融機関様

---

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



の援助とかも、まず黒字ではなければ駄目だということで、猛烈に、当たり前のことですね、無駄な経費を使わないとか、自分たちで考えて売上をなるべく上げるとか。

一つ良かったのは外商部様が残っていらっしゃって、この外商部の皆さんがまだまだ地域に密着してくれておりました、いろんな地域のお客様が、正直ここ数年のさいか屋の体たらくに、こういうこと言うと怒られますが、辟易しておりました。とにかく何かやってくれということで、地元の皆さんの声を少しずつ形にしているだけでございます。

さいか屋につきましては、非常に立地が、藤沢店は駅に密接しているということで。あれは何線でしたか。

**山野井 [A]**：藤沢は、東海道と小田急と江ノ電と三つです。

**浅山 [A]**：三つ入っており、非常に立地条件がいいと。横須賀店につきましても、もともとは市街の真ん中にあるものですから、駅からちょっと離れておりますが、非常にいいということです。市役所等の自治体の皆様とも非常に連携が取れています。

今後につきましては社長、先の未来について、どういふのを目指しているかは社長からご説明してもらったほうがいいです。

**山野井 [A]**：一つご質問のあった中とは別になるのですが、やはり先ほどお話ししたように、さいか屋は今年の10月に152年を迎えるに当たって、絶大な地元の方たちの応援というのが今も根強くありました。

浅山会長からお話があったように、やはり一時期、2020年の第2四半期に、私たちが連結の子会社になると決まる前に、横須賀店は閉店する予定でいました。そのときに地元の方、それから横須賀市の上地さんという市長も含めて、さいか屋がなくなるということは横須賀の中で火が消えてしまうというような思いがある中、やはりAFCのグループになって、新しく店をもう1回オープンするという中で、行政も含めて、非常に応援をいただきながら、金融機関様の応援もいただきながら、大きな支援をいただきました。

それから、これは具体的にAFCのグループになってから、今、金が非常に一万いくらということ、大きな金額で値上がりをしているんですけれども、これもグループになりましてから金の買い取りとか、要らない宝石とか、いろんなものを売却するというビジネスが結構あります。ここに関しても、横須賀店とか藤沢店だけでも駅の近くにお宝屋さんとかテレビで宣伝するようなどころが多い店舗のところで、10店舗ぐらいあったりするんですけれども。

---

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com





さいか屋という昔からの、152年の信頼関係がある中で、どうしてもこういうふう買取という部分で若干の買取価格の差があったりして、さいか屋が決してそれが最高値の価格を付けているのではないんですけれども、やはりお客様たちは、さいか屋だと。今回の高島屋さんの金の器を盗んで持って行って百何万円で買い取られたりとか、正規の半分ぐらいだったというのはニュースで結構出ていたんですが。

そういった中、やはり少々誤差があっても、長く子どもの頃からファミリーレストランで食べていたりとか、クリスマスのケーキを買ったりとか、正月のものを買ったさいか屋がいいということで、やはりさいか屋に金の売却のものを持ってきていただいて。

私も同じような地方百貨店の社長さんともお話しするんですけど、会社名は許可が取れていないので言えないんですけれども。関東のある百貨店さんでも同じようなことをやりたいということで、ノウハウをお教えしたら、やはり同じように地方百貨店の信用ということで、当初私たちがやっていた金額よりも、大体同じような規模の百貨店さんですけども、やはりスタートして、当初彼らが考えたよりも5割ぐらい高い形で買い取りができたりという部分もあります。

私の思いとしては、さいか屋の150年の歴史と信用を活用しながら、浅山会長からもお話があったように、グループで飲食とか学校とか、いろんなことを今実行しながら、外国人学校もうまくいっていますし、それから不動産の方もうまくいっている。先ほどからお話ししている、やはり攻める営業ができる外商というものを活用しながら、何しろグループの基盤とさいか屋の信用、これをしっかりしながら、信頼を一番に、売上と業績を上げていきたいと思っています。

何しろさいか屋の信用を失わずに、信用を全面的に出しながら、小売としてグループに貢献したいと思っておりますので、よろしく願いいたします。よろしいですか。

**浅山 [A]**：ご質問にありました、ここを成功例にして他の百貨店をというお話は、そこまで全然考えられていないとか、まず自分のところを黒字化していくということがここ数年だったものから、まだそこまで余裕もないですね。

一つ、今、山野井は触れておりませんでしたけれども、この先の話として、藤沢も横須賀も建ってから40年ぐらいもうたっておりまして、老朽化も実は実際来ておりまして。今後、ここをもう一段階、まず黒字、地域にもう一度愛される百貨店にすることを最優先にやるんですけども、その先は、例えば当社グループだけでこの百貨店を未来につなげていく一つのモデルにすることは多分不可能だと思っております。

---

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



多分、他の地域の百貨店もそうだと思いますが、大体立地的にすごくいい場所にあるかと思えます。そういうところに今のお客様になられる方たちが何を求めているかということ、一つリサーチもしながら、自治体と協力しながら、その地域の開発も一緒に考えていただきながら、われわれだけというか、地域として考えていただくような施策をもし今後できれば、将来、そこから先の新しいさいか屋の未来が描けるのではないかなとはお話ししています。

具体的にはまだ言えないんですけれども、実際にはそういう話が出ていまして、常にそういうお話の真ん中にはいさせていただくというか、というようなものを目指しておるというか、やらせていただいているような状況でございます。ご質問、ありがとうございました。

**質問者 [Q]**：2点目の質問として、他の事業に関してです。小林製薬とか、想定外のことは起き得ると思うんですけれども。相変わらず着実なご展開かなと思いつつも、もっと事業展開のスピードが速くならないのかと思わないでもないんですけれども。事業スピードが速くなるとしたら、どうなった場合なのか。展開のスピードを2点目の質問として、以上とさせていただきたいと思えます。

**浅山 [A]**：まず、スピード感のご質問というか、ご意見をいただいておりますが、まさしくそのとおりでございます。当社の創業の名誉会長も、それは重々われわれも指示も出しておりました。とにかく黒字化、当社と一緒にいる会社様のほとんどが赤字で当社に来るものですから、まずそれを消すということに、ここ1~2年費やしております。まずそこまでを早急にやると。その後の展開につきましては、多分今後のわれわれの世代がどうやっていくかということでございます。

お話は重々耳が痛いというか、分かっておるんですけれども。よく、長期計画、中期計画を出してくださいとか、そういうご意見もいただくんですけど、それも重々分かっております。まず、今現状の、最新のクリアライズグループ、この辺の数字が着実に把握でき、また今後のビジョンが描けるようなところまで行ったら、今後の中期、長期の展開のものをなるべく急いで出ささせていただきたいとは思っています。すみません、お答えになったかどうか分からないですが、急ぐという意味ではおっしゃるとおりなので、なるべく急ぎたいと思えます。ありがとうございます。

**司会 [M]**：ご質問、ありがとうございました。他にご質問はいかがでしょうか。せっかくの機会ですので、ぜひお願いいたします。

それでは、ご質問も出尽くしたということでありますので、これをもちまして決算説明会を終了させていただきます。

---

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



浅山様、山野井様、ご説明ありがとうございました。また、ご参加の皆様、ありがとうございました。

浅山 [M]：どうもありがとうございました。

[了]

(ご参考1) 年度ごとの業績・決算情報

## 経営成績【連結】

連結



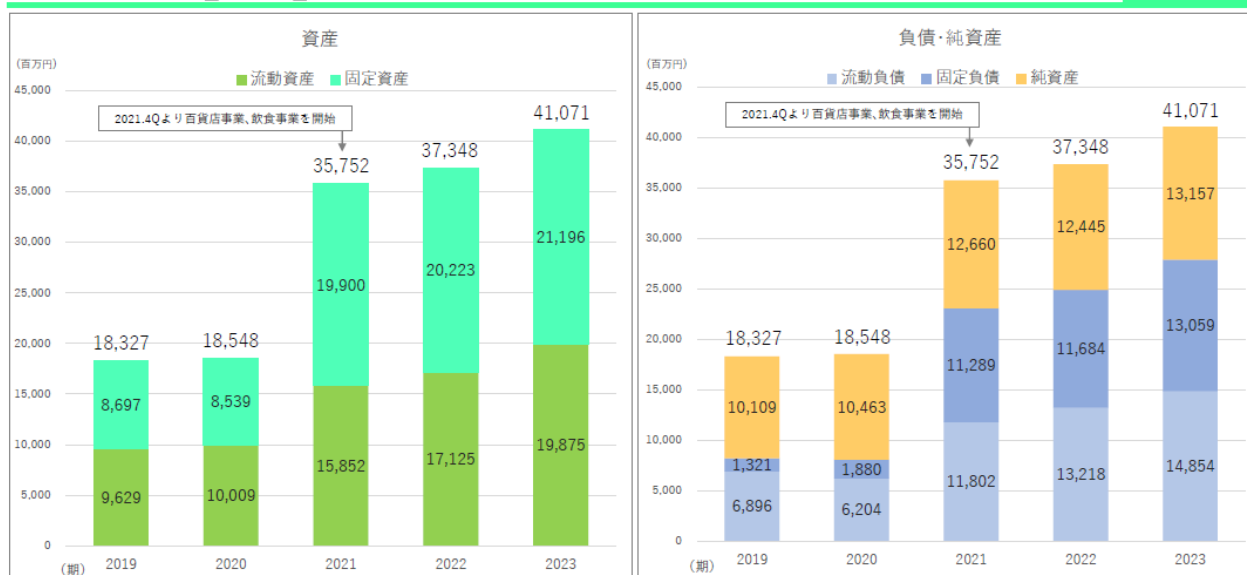
\* 2022.8期より新収益認識基準を適用しており、売上高及び利益面において影響が生じるため、前期比は記載しておりません。

AFCHD AMS Life Science Co., Ltd. 25

(ご参考1) 年度ごとの業績・決算情報

## 財政状態【連結】

連結



AFCHD AMS Life Science Co., Ltd. 26

## サポート

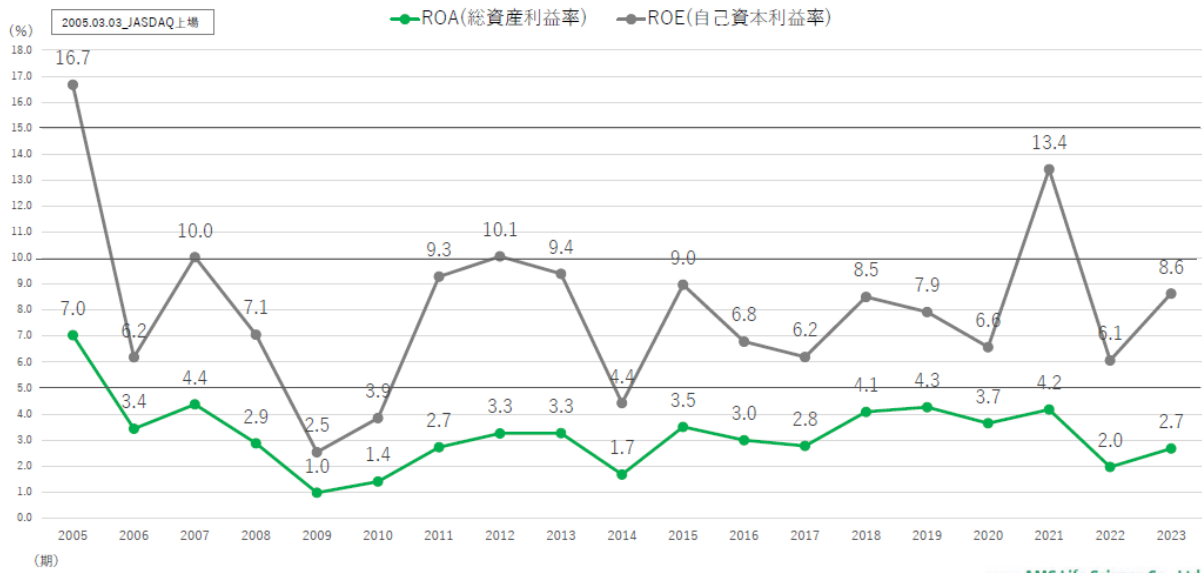
日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



(ご参考1) 年度ごとの業績・決算情報

## 連結収益性の推移【連結】

連結

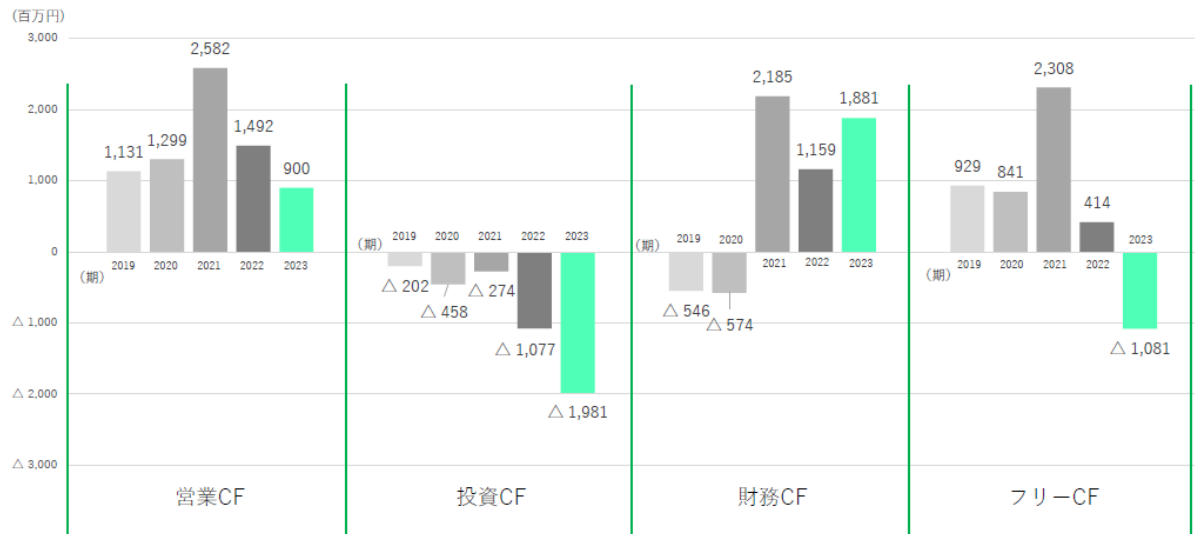


AFC-HD AMS Life Science Co., Ltd. 27

(ご参考1) 年度ごとの業績・決算情報

## 連結キャッシュ・フロー【連結】

連結



AFC-HD AMS Life Science Co., Ltd. 28

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

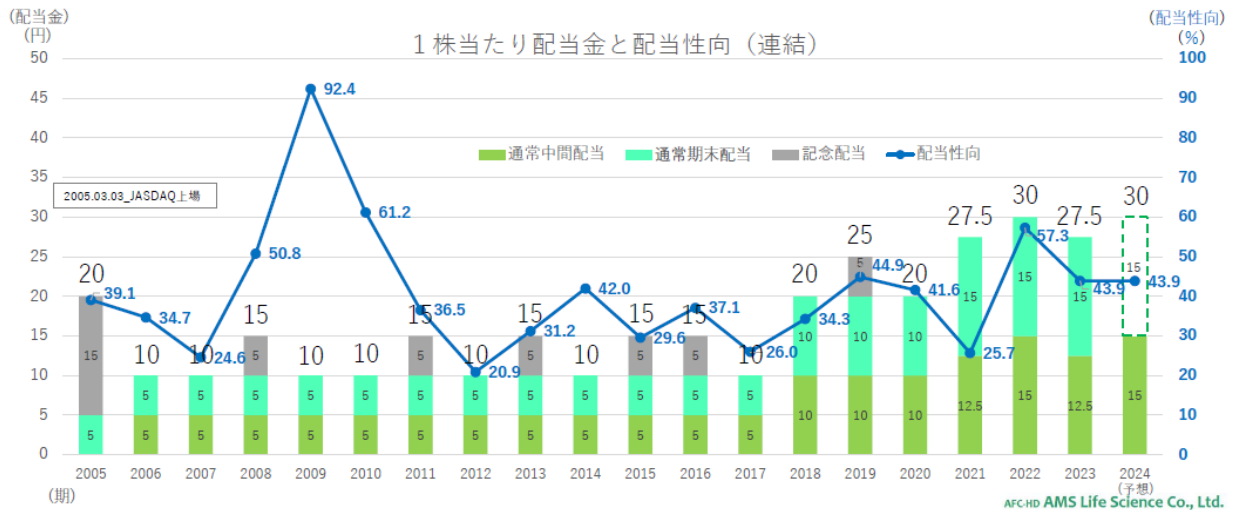


(ご参考1) 年度ごとの業績・決算情報

## 株主還元～配当方針について～

単体

基本方針：純利益を、株主1/3・自社(成長投資)1/3・従業員1/3で配分する。



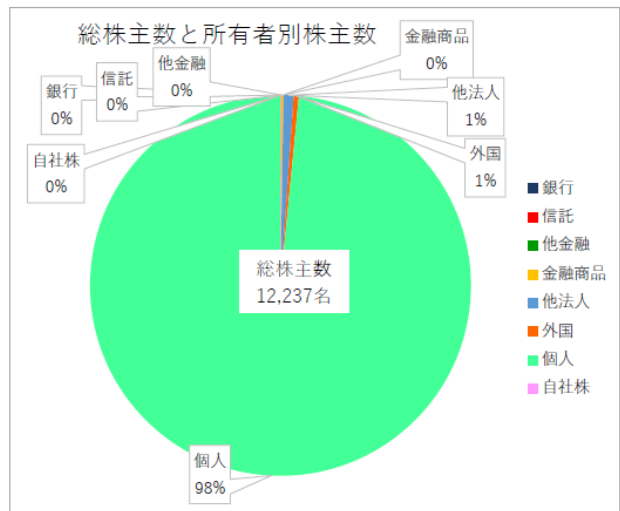
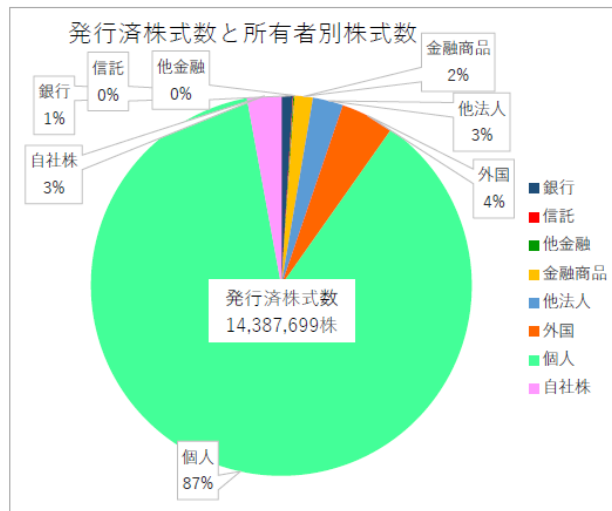
(ご参考1) 年度ごとの業績・決算情報

## 株式の状況① 発行済株式数と分布状況

単体

発行済株式数は、約1,400万株。所有者は、個人が87%を占める。

総株主数は、約12,000名。所有者は、個人が98%を占める。



### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

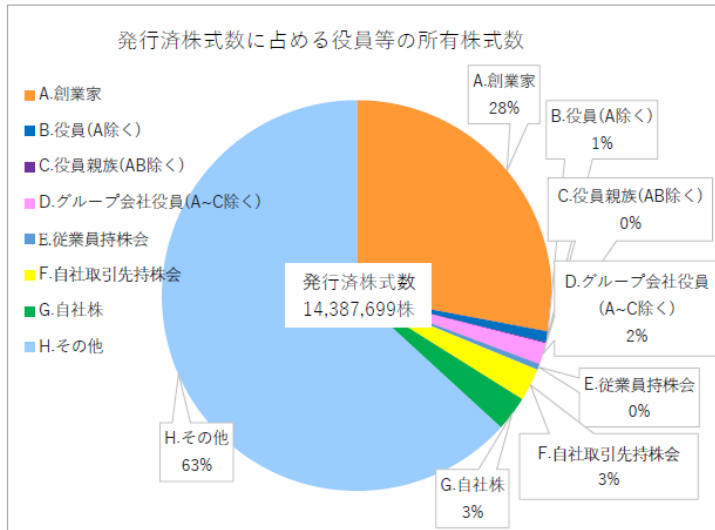


## 株式の状況② 役員等の所有株式数・大株主の状況

単体

発行済株式数のうち、役員・自社関連が37%を占める。

大株主の状況



2023 / 4Q			
株主名	持株数(株)	持株比率(%)	
1 浅山忠彦	2,050,070	14.2	
2 浅山雄彦	1,161,930	8.1	
3 自社株	416,094	2.9	
4 自社取引先持株会	387,600	2.7	
5 木下圭一郎	336,700	2.3	
6 浅山麻衣子	305,000	2.1	
7 浅山麻里奈	300,000	2.1	
8 藤田圭亮	129,167	0.9	
9 静岡銀行	124,900	0.9	
10 NOMURA PB NOMINEES LIMITED OMNIBUS-MARGIN(CASHPB)	118,400	0.8	

AFCHD AMS Life Science Co., Ltd. -31

## 株式の状況③ 株価情報

連結

年月日	概要	区分	株価(円)	調整後株価(円)
2005.03.03	ジャスダック上場	初値	35,200	1,173
2005.03.03	ジャスダック上場日の終値	終値	46,000	1,533
2005.08.25	3分割前 最終売買日	終値	55,500	1,850
2005.08.26	【株式分割】 1 : 3	-	-	-
2005.10.17	上場来の最高値 (新興銘柄や株式分割を行う企業に人気があった頃)	高値	32,850	3,285
2011.08.26	10分割前 最終売買日	終値	6,900	690
2011.08.29	【株式分割】 1 : 10	-	-	-
2018.05.22	【増資】 公募増資 170万株	-	-	-
2018.06.13	【増資】 オーバーアロットメントによる売出し 25.5万株	-	-	-
2020.03.17	上場来の最安値	安値	517	517
2024.04.24	直近の株価	終値	846	846

AFCHD AMS Life Science Co., Ltd. 32

### サポート

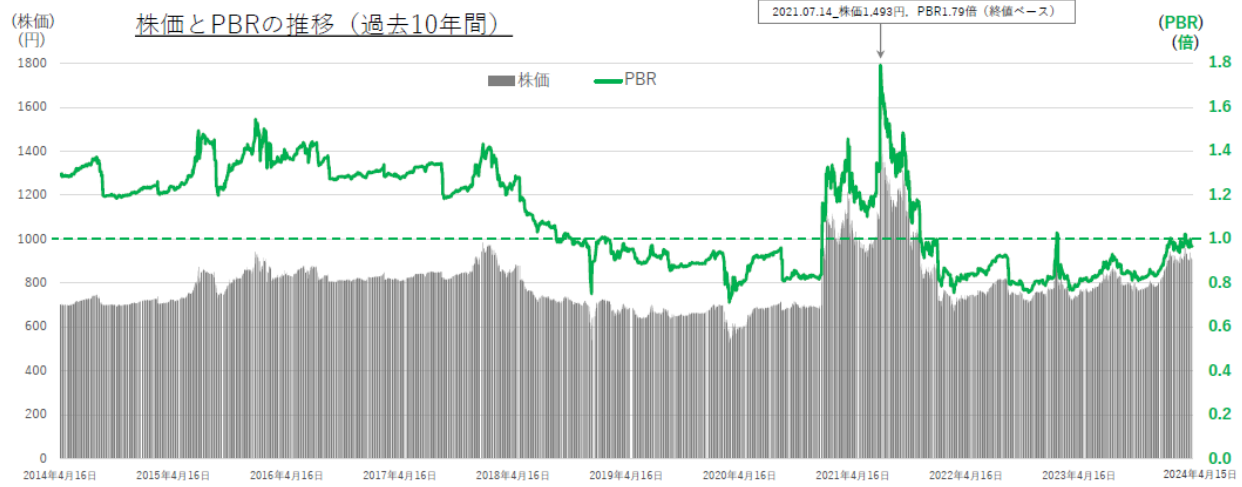
日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

(ご参考1) 年度ごとの業績・決算情報

## 株式の状況④ 株価とPBR

単体

2024年8月期 期初から直近までの株価は、754円～968円で推移。PBRは、0.81～1.02で推移。



(ご参考2) 将来のビジョン (M&Aの方針)

## 国際化

連結

### 経済成長に勢いのある国・地域の需要開拓を目指す

- ・ 海外における当社の強み：日本製に加え、株上市場会社である事の信頼性が高い  
【株AFCHD-AMスライフサイエンス】
- ・ 国際化への足掛かりとして、中国（重慶市1社・浙江省1社）・ベトナム（ハノイ1社）へ進出  
【株愛福喜(重慶)生物科技有限公司】 【株杭州永遠愛生物科技有限公司】 【S SPRO Joint Stock Company】
- ・ 不動産業・建設業は、国内外の事業拡大を見据え自社工場建設・建物の保守等を担う  
【株AFCSマイル不動産】 【株AFCSマイルプラス】 【株AFCSマイル建設】 【株AFCS建設】
- ・ 飲食事業においても、海外へ進出していく  
【株なすび】 【株FSC】
- ・ 日本語学校は、将来当社へ入社を希望する学生について、現地幹部候補となる人材を育成  
【AFC国際学院】
- ・ 旅行業は、海外の往来が増えることを想定  
【AFCツアーズ】



重慶市産業パーク視察(2023年9月)



S SPRO社 給食事業



AFC国際学院 入学式

AFCHD AMS Life Science Co., Ltd. 35

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com





## M&Aの方針

連結

- ①健康食品、化粧品及び医薬品の開発、製造販売を核に、
  - ②飲食業と合わせた観光事業、
  - ③建設業と合わせた不動産開発事業
- を三本の柱に、
- これら三本の柱を太くするために、
- 必要なリソースを求めています。

### 脚注

1. 音声が不明瞭な箇所に付いては[音声不明瞭]と記載
2. 会話は[Q]は質問、[A]は回答、[M]はそのどちらでもない場合を示す

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



## 免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、SCRIPTS Asia 株式会社（以下、「当社」という）は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用してはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて利用者の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して利用者が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。

---

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

